

て うご 1月22日（木）手を動かす

「ピアノは脳^{のう}にいい」「そろばん^をする
と頭^{あたま}が良くなる」「お手伝い^{てつだ}を上手^{じょうず}に
出来る^{でき}子はかしこい^こ子^こ」という話^{はなし}を
聞いた^きことはありますか。



「東大生^{とうだいせい}の2人に1人がピアノを
習^{なら}っていた」というアンケート結果^{けっか}もあ
ります。では、なぜ「ピアノは脳^{のう}にいい」といわれるのでし
ょう。手^てを器用^{きよう}に使う^{つか}ことが脳^{のう}をきたえるそうです。手^てを器用^{きよう}
に使う^{つか}のはピアノだけではありません。工作^{こうさく}だって、お手伝い^{てつだ}
だって、なわとびを片付け^{かたづ}るのも同じ^{おな}です。

フランスの研究^{けんきゅう}では、ペンチで作業^{さぎょう}をしているときには、
勉強^{べんきょう}する時^{とき}と同じ脳^{のう}の場所^{ばしょ}が活発^{かつぱつ}に働^{はたら}いていたというので
す。工具^{こうぐ}を使って工作^{こうさく}することで、勉強^{べんきょう}する時の脳^{のう}をきた
えることができるらしいです。おもしろいですよね。

図工^{ずこう}や音楽^{おんがく}などで手^てを使う^{つか}活動^{かつどう}は、頭^{あたま}をきたえてくれると
いうことなのでしょう。何事^{なにごと}もていねいに、きちんとやるこ
とは、自分^{じぶん}を磨^{みが}くことになるのです。

村越 新